

2011年1月1日から2016年2月1日まで肺炎と診断を受けた患者さんへ

研究課題名：肺炎の病態解明、治療法、予防法、予後に関する検討

肺炎は風邪などの上気道炎に引き続いて、主に細菌の感染によって引き起こされる呼吸器感染症の中で最も重篤な疾患です。適切な抗菌薬を投与しなければ肺炎は進行し、最終的には呼吸不全や合併症などで死に至ります。わが国には強力な抗菌薬が存在しますが、その乱用によって耐性菌が産生され、抗菌薬の効かない菌が蔓延しています。さらに高齢化が進み、宿主の免疫状態が低下した人が増えることによって、抗菌薬の効果が低下しています。このため、肺炎は癌とは異なり良性の疾患であるにも関わらず、我が国の死因の第3位となっています。私たちは、生命予後のみならず健康寿命を考慮した肺炎の診療法を模索する研究を行っています。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、2011年1月1日から2016年2月1日の間に肺炎と診断された患者さん約2,000名（川崎医科大学附属川崎病院約1,200名）を対象とします。研究期間は倫理委員会承認日～2年間の予定です。肺炎症例の臨床像を解析し、適切な治療法と予防法を確立します。本研究の成果として日常診療で難渋する肺炎患者さんの新たなアプローチが明らかとなり、患者さんに対する適切な治療法と予防法が実施可能になります。

本研究は観察研究であり、既存資料のみを用いた研究であるため、新たな人体試料の採取は行いません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では主任研究者の教員研究費のみを使用いたします。総合内科学1教室は大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、武田薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社から年間50万円以上の奨学寄付金を受け取っていますが、利益相反委員会に申告を行い適正に管理されています。尚、上記企業は本研究とは直接関係ない企業です。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

[問い合わせ先] 主任研究者：総合内科学1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111(内線8006)